

11月26日(土)ANA955便は、定刻通り20時30分に北京首都空国に着きました。格安ツアーの常として出発便の時刻は大変遅く、帰国便の時刻は大変早い。今回は出発便成田発17時25分、帰国便北京発8時55分だ。多分この日は6時くらいにホテルを出る事になるだろう。4泊5日とは言っても実質は中3日である。

さて、到着ロービーに出たとたん恐れていた通り、腰痛が起きた。息子の肩につかまってヨロヨロ歩く。ガイドがお出迎え、思わず「どうしましたか?」「ギックリ腰だ」ギックリ腰と言う日本語が分からないらしい。中国語で説明する。「観光、大丈夫ですか?」「分からない。」てな訳で迎えのバスに。ご一行22名様のご団体となる。客の多くは中年を相当過ぎた女性達だ。子連れの家族もいた。ガイドは中年男性、アシスタントに若い女性が付いている。

市内へのバスの中でガイドが色々説明。ここで格安ツアーの一端に触れた。ガイドが親切にも車内で日本円を中国元に両替してくれると言う。日本円1万円相当と言う中国元750元が既に封筒に入れて沢山準備してあった。多くの方が両替してもらっている。驚くべきはそのレートだ。1万円がタッタ750元にしかならない。1元=13.3元だ。銀行では多分820元くらいにはなる。思わず「私なら800元出します。」と言いたくなった。また、缶ビールや水も売ってくれる。缶ビールは10元(市価3元くらい)だそう。日本円130円くらいだから安く感じるかも知れないが市価は50元以下だ。私は両替もしないしビールも買わない。大体私には勧めなくなった。

宿舎の北京飯店のロビーで「明日の観光は腰が痛くて悪いけど参加出来ない。」と言うとあっさり許可してくれた。多分、人数が22名と多いし、中国通がいると商売がやりづらいのではないかと感じた。「明後日も無理しなくても良い。」などと言ってくれる。大変ラッキーだ。ガイドとの会話は全て中国語になった。

北京飯店は1980年代に仕事で泊まって以来で、格式は最高だ。格式が高いと言うことは値段も高い。宿泊費はツアーに含まれているから分からないが、部屋のペットボトルの水が50元+サービス料15%と書いてある。市価はせいぜい3元だ。部屋にはタダのミニボトルがあるが、乾燥している北京では足りない。10時半を過ぎていたが1軒だけ開いていた近くの小店で3元で買った。ミニバーのビールも10倍以上だ。とても飲む気になれない。これは断っておくが、格安ツアーだからではない。北京飯店の格式値段だ。日本の帝国ホテルでもまさか缶ビール日本の市価の10倍の1本3,000円はするまい。



成田空港で



びっくり水。(50元+15%)

君度橙酒	70.00
人头马 Club	130.00
康巴利	70.00
国产啤酒	35.00
进口啤酒	45.00
可口可乐	35.00
健怡可乐	35.00
雪碧	35.00
苏打水	35.00

国産缶ビールが35元

さて、明日は晴れてフリーになったので息子のお目当ての、パクリ遊園地に行きます。